

学位論文審査の結果の要旨

小峰 浩隆

本研究は外来捕食者マングースによる在来被食者アマミハナサキガエルへの高い捕食圧がもたらす進化的な影響を検出することを目的としている。具体的にはマングース根絶事業によって捕食者の個体数が激減したのちに、被食者の形質変化（逃避行動、形態、パフォーマンス）を過去のマングースの導入地点からの距離（捕食圧勾配）に対応させて解析を行ったものである。その結果、逃避行動、形態（すね長・もも長/体長）およびパフォーマンス（逃避行動の持続性）が過去の捕食圧勾配に対応していることを明らかにした。審査会では外来捕食者が在来被食者に及ぼす進化的な形質変化について行動・形態・パフォーマンスの面から統一的に明らかにしたこと、マングース根絶事業に対し地域別残存リスク評価による貢献を行った点が高く評価された。なお、審査の結果、論文内容をより明確に示すために論文名を「Evolutionary impact on Amami tip-nose frog by an invasive predator mongoose and implication for the eradication project（外来捕食者マングースによるアマミハナサキガエルへの進化的影響と根絶事業への提言）」に変更するに至った。

以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

最終試験の結果の要旨

小峰 浩隆

最終試験は、平成31年1月10日に東京農工大学農学部において、学位論文の公開発表に引き続き、論文審査委員により行われた。最終試験では学位論文の専門領域に関する質疑応答がなされた。その結果、本審査委員会は小峰浩隆君が自立して研究を進めることができる学力と見識を有しており、博士（農学）の学位を授与するに足る資格があると認め、最終試験を合格と判定した。